

原水爆禁止2023年世界大会成功へ 行動を

「原水協通信」をしっかり読もう

「通信」6月号は世界大会特集になっています。2ページには「支持 賛同 参加の呼びかけ」「世界大会のプログラム」、4ページには「被爆者の声を世界に」キャンペーンの要領やの協力も呼びかけています。被爆者の方で、私もいいよと考えておられる方はご協力ください。また世界大会成功へ運動の力になる「パンフレット」の紹介をしています。5ページは国民平和大行進のダイジェスト。

8ページは、5月14日に開催された広島での市民集会広渡報告の要旨が紹介しています。その中で、核兵器のない世界へ道筋は明確に示されている。それは核兵器禁止条約であり、核保有国の核軍縮が容易に進まない問題に直面して、核廃絶を求める多くの国の政府とNGOの市民たちによって構想され、粘り強い努力によって2017年7月7日122カ国の賛成によって国連総会で採択、2021年1月22日に条約として発効した。現在、署名国92カ国、批准国68カ国、第1回締約国会議が2022年6月ウィーンで開催され禁止条約は、兵器の開発、実験、製造、獲得、保有、貯蔵、管理の移譲、使用、使用の威嚇など核兵器の存在を認める一切の行為を締約国に禁止するものだ。人類はこの道を進むしかない。

しかし、阻む力が大きい。これの中心にいるのがG7だ。

核保有こそが、国際秩序を乱す国の核使用を抑止できる、世界の現況において国際秩序を乱す国による核使用のリスクがあるかぎり、核兵器の即時の禁止は世界の平和にとって有害であり、世界のほとんどすべての国が参加しているNPT体制こそが安定した核管理システムで、禁止条約はその分断に作用するという「核抑止論」の立場である。

そしてG7の支配する世界をかえるのは核廃絶を人類課題として、願ひ。要求し、そのために行動する世界の市民たちだ。

世界大戦の20世紀が国家の世紀だったとすれば、21世紀において、人類こそ国家に代わる、わたしたちのアイデンティの軸をなすものだ。1948年第1回国連総会が採択した世界人権宣言第1条は、人類の一人ひとりが、個人として平等の尊厳をもつことを規定しました。だれ一人殺さない、だれ一人殺させない、人類にとって当たり前のことを貫くことが、被爆地広島が訴えるG7サミットの課題だ。と報告。とても分かりやすく今回の世界大会のテーマ「被爆者とともに、核兵器のない平和で公正な世界を一人類と地球の未来のために」がしっかり理解できるものだと思う。

ぜひ読んでほしい。

原水爆禁止2023年世界大会パンフレット オンライン連続学習会

第1弾 G7広島サミットの結果をどう見る？
今年の世界大会の意義を学ぼう！

6月15日(木) 13:30~

講師：安井 正和

原水爆禁止日本協議会
事務局長

ID：839 3234 8430
パスコード：230615



第2弾 岸田政権の大軍拡・大增税の背景にある
バイデン米政権の国家戦略を深掘りします。

6月22日(木) 13:30~

講師：千坂 純

原水爆禁止世界大会実行委員会
運営委員会共同代表
／日本平和委員会事務局長

ID：842 4700 0127
パスコード：230622



- ・「核兵器禁止条約参加署名」軸に国民的運動を起こそう。新しい署名リーフやポスターも活用を
- ・7月7日の新聞意見広告を賛同を呼びかけよう。
- ・被爆者を支援し、「被爆者の声を世界に」キャンペーンに取り組もう。
- ・全ての取り組みに若者の参加を、原水協の組織強化を。世界大会パンフの学習会を開こう。